

## 『放課後等デイサービス自己点検及び評価シート』

作成日： 2023/05/09

事業所名： 放課後等デイサービスぽっ歩

		現在の取組内容・今後の改善目標（内容）
1 環境・体制整備	①支援内容にあった指導訓練室・相談スペース等の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢層が上がりボードゲーム等の集団遊びが増えてきたことを受けて、自由配置できる机とイスを増設</li> <li>・様々な遊びに自由に入出りできるよう、仕切等を設けず全体で空間を共有できる環境設定</li> <li>・星の部屋（カームダウンスペース）を設置</li> </ul> <p>児童の成長に応じて事業所の雰囲気や、求められるニーズが変容してきた。利用児童の状態に応じて事業所のプログラムを工夫、変更すると共に、柔軟な環境設定を行っている。</p>
	②職員の専門性・配置数 あい・さかいサポートリーダーの配置の有無	<p>看護師 1 名、保育士 3 名、児童指導員 4 名が在籍している。スタッフは平均 5～6 名/日配置している。</p> <p>内、あい・さかいサポーター 2 名</p> <p>強度行動障害 基礎研修 2 名 実践研修 1 名</p> <p>喀痰吸引等第 3 号研修 2 名</p> <p>介護福祉士 2 名</p> <p>ミュージック・ケア初級研修 6 名 中級研修 3 名</p> <p>認定指導者 1 名 音楽療法士 1 名</p>
	③送迎体制・添乗員の確保	<p>可能な限り添乗員 1 名を配置している</p> <p>てんかん発作等、見守りが必要な児童においては必ず配置している</p>
	④合理的配慮の視点に基づく環境整備	<p>玄関入口フラットタイプ、トイレ内手すり設置</p> <p>飛び出し防止のためにゲート設置</p> <p>カームダウンスペース設置</p> <p>非常口とトイレの構造上、車椅子の対応が困難</p>
	⑤職員の健康診断の実施	<p>毎年 9 月を目処に実施</p>
2 業務	①アンケート等による利用児・保護者のニーズの把握とフィードバック	<p>年に 1 度以上、アンケートを実施。事業所評価をお願いしている。</p>

	<p>②職員の支援技術の向上・虐待防止等の研修 (障害児通所支援事業者育成事業利用の有無)</p>	<p>障害児通所支援事業者育成事業を利用した。 社内研修とケース会議に参加してもらい、スタッフへ助言を行っていただいた。オンライン上での研修も大変ありがたい機会である。大きな相談事があるわけではないが、細かい疑問等も気軽に相談できる関係が外部にある事はとても心強く感じています。</p>
	<p>③虐待防止等のための責任者を設置</p>	<p>虐待防止委員会を設置した。今まで通り、年1回の虐待防止・権利擁護についての研修を行いながら、虐待防止について組織的に取り組んでいる。</p>
	<p>④利用児、保護者からの苦情や意見への対応及び事業運営への反映</p>	<p>今期、該当実績なし</p>
<p>3 適切な支援の提供</p>	<p>①児童発達支援管理責任者による放課後等デイサービス計画の作成(アセスメント・利用児及び保護者の意向確認・計画案の作成・会議開催・計画の保護者への説明及び交付)</p>	<p>最長期間6ヶ月に1回の評価と再計画を行っている。事業所内会議と面談を行い、支援計画に反映させている。</p>
	<p>②モニタリングの実施、計画の見直し</p>	<p>各スタッフに評価する児童を担当分けし、会議等で話し合いながら児童発達支援管理責任者とモニタリングを完成させ、計画を共に考えて作成している。</p>
	<p>③個別の課題に対応した活動内容・プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADLの自立に向けた個別支援</li> <li>・社会参加を到達点としたコミュニケーションにおける個別支援</li> <li>・宿題等、発達・特性に応じた学習支援</li> </ul> <p>障がい特性のみでアセスメントせず、発達心理学をベースに児童の発達状況を捉え、生育歴と障がい特性で行動背景を探りながら、児童の困難にアプローチしている。</p>
	<p>④ミーティング等の実施</p>	<p>毎朝、当日の動態と前日以前の振り返りを行っている。日替わりでスタッフリーダーを設け、ミーティング内容を専用ノートに記録している。</p>
	<p>⑤支援内容の記録</p>	<p>保護者との連絡帳欄に記録スペースがあり、毎回共有している。特にスタッフ間で共有すべき事項や、支援計画に沿った内容については連絡帳裏面の記録スペースを使って共有している。又、より詳細な記述が必要な内容は別の記録表を使って記録している。</p>

4 関係機関との連携	①サービス担当者会議への参加（障害児相談支援事業所との連携）	開催時には積極的に参加している。 障害児相談支援事業所との連携をととても大事にしている。関係機関で共有すべき内容は積極的に連絡をし、必要があれば担当者会議の依頼を行っている。 ご家庭には相談支援事業の役割と重要性を、必要に応じて伝えて将来を見据えた信頼関係と連携体制を育む事を推奨している。
	②学校との連携	主に送迎時でのやり取り、必要時の電話連絡等、担当者会議での顔合わせで連携をとっている。昨今では、学校側から当事業所へ直接連絡をいただく等、目に見えた関係性の構築を感じる。学校・保護者・当事業所の三者で連携意識をもって支援できる箇所が増えてきた。
	③他の放課後等デイサービス事業所、障害福祉サービス事業所等との連携	さかい障がい児放課後連絡会の役員会に毎月出席する事で他事業所との連携をはかっている。前年度はコロナの影響で会合が難しかった為、オンライン会議で連携をはかった。役員として研修を開催する等、積極的に連携を拡げている。
	④（特に医療的ケアを必要とする利用児について）主治医や協力医療機関等との連携・連絡体制	当事業所から独断で主治医と連絡をとるような事は行っていない。特筆すべき内容や疑問点は、常に看護師および管理者から保護者へ連絡し、必要に応じて保護者から主治医へ相談していただく流れをとっている。
	⑤学校を卒業する際の就労移行支援（引継ぎ等）、就学前施設との連携（情報共有・引継ぎ等）	就労についてのご不安や、就労先を選ぶにあたってのご相談等は面談で伺うので、保護者とご一緒にお話をするが、直接引き継ぎを依頼される機会はない。
	⑥「あい・ふあいる」の活用	現行、活用はしていない。
	①事業所で実施している支援（支援内容、プログラムなどを記載してください。）	集団音楽療法ミュージック・ケア 発達年齢に応じたADLの自立 集団活動を目的としたSST 発語や要求を助ける目的としたPECS 登校を援助する目的とした不登校支援 看護師による医療的ケア

5 保護者への説明責任等	②運営規程、支援内容、利用者負担の説明	契約時に重要事項説明書と利用契約書を読み合わせ、必要部分を補足し、適宜質問に応える形で説明している。重要事項説明書の記載内容に変更が生じた場合は常に、変更箇所のみを保護者へ配布している。
	③保護者からの相談への適切な対応、必要な助言	法人代表・管理者・看護師が適宜行っている。電話対応又は来所という形で実施している。保護者から請けた相談は、学校や各関係機関等、必要な施設へ連絡をとり連携して対応するよう取り計らっている。
	④会報の発行等による活動内容や行事予定等の定期的な発信	半期に一度、まとめて写真を贈っている。画像配信アプリで日々の様子を不定期配信している。年3～4回程度の会報を発行している。毎月のカレンダー（予定表）を発行している。
	⑤日々の支援内容、利用児の様子、おやつ等の保護者への報告	連絡帳や送迎時に報告している。おやつはその日食べた内容を個別に手書きで記載し明細書を毎日作成して翌月に報告している。
	⑥おやつ代等実費徴収している費用に係る領収書の発行、精算報告	おやつ代は購入伝票を事業所保管し、希望に応じて開示できるようにしている。日々の選んだおやつの種類・単価・合計は個別に手書きし、簡易の明細書を月末に報告している。外出活動や調理等、単発の実施についてはレシートの複製と計算式を書面にまとめて発行、翌月に報告している。
	⑦身体拘束を行う場合の決定手順、利用児・保護者への説明、計画への記載	① 児童の行動発生 ② 行動背景(主に生育歴)の模索 ③ 行動に関与する障がい特性の把握 ④ 面談等による保護者からの聞き取り ⑤ 計画案へ記載 ⑥ 保護者へ説明 行動発生時、児童へ説明
	⑧個人情報の適切な取扱い	児童のケースファイルは鍵付きロッカーに保管している
	6 非常時の対応	①緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等の整備と職員、保護者への周知

	②非常災害の計画策定、避難・救出・その他必要な訓練の実施	毎年、春と秋に避難訓練を実施している。今期は防災センターへ行き、ほぼ全員のご利用者が参加する事ができた。
	③ヒヤリハット、事故の事案を収集し再発防止等について事業所内において共有	今年度、事故はなかったが前年度と変わらず、事故が発生した際に事故報告書を持って全職員参加のケース会議を実施するよう制定している。トップダウン方式にならないよう、全職員が原因と対策を意見し、全職員が当事者である意識を持つ事を引き続き、テーマにしている。
	④サービス提供中の事故を防ぐための取組等	事業所内で傾向の高い事故（逃走・見失い）を絞り込み、対策（ベビーゲートや開閉扉のチャイムの設置、リスクマネジメント研修による死角の把握等）を講じた。
	⑤感染症対策の実施	手洗い徹底、マスク着用、換気扇の常時作動、アクリル板の設置、戸外活動の増量等を日々実施している。
7 その他	①地域との交流	近隣の公園等で一緒に遊んだり、公園のゴミ拾いを行って駐在所に運んだり、戸外活動時に地域とコミュニケーションを楽しんでいる。又、近隣の方が使わなくなったおもちゃや、お庭でとれた花等を提供してくれる事が増えた。